

令和5年度 徳島県立名西高等学校(全日制課程) 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	総合評価		
学習指導の充実	自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒の育成	企画課	① 授業評価アンケートでの、ルーブリックの資質・能力について、自分自身の向上を意識できた生徒の割合70%以上。(新規)	① 教職員研修、各教科での授業研究会を実施し、資質能力育成のための授業改善を進める。 ② 教科会等で授業研究を行い、わかりやすい授業の実施に努める。 ③ 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。	① 授業評価アンケートにおける肯定的な回答は、97.2%であり、ルーブリックを意識した生徒の取組がうかがえる。	A	各種報道や学校行事への参加等を通じて、学校・生徒の変化を感じることができた。生徒が自信をもって行動したり発言したりしている様子が見られるようになっている。授業評価アンケートの結果も良好であり、目指すべき生徒像として、「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒の育成」をめざし、「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒の育成」を掲げ、学校の教育活動全体で、生徒自身が主体的に取り組む場面を組織的に設定したこと、教職員研修を通して共通理解を図ったことは、効果的であったと考えられる。	ルーブリックを活用した授業改善に向けた取組による、より質の高い教育実践、個に応じた指導を充実させるための、特別支援教育の充実、図書館の利用促進を通じて知的好奇心の喚起に継続して取り組み、「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒の育成」を図る。
		教務課	② 授業評価アンケートでの、生徒の授業満足度の肯定的回答90%以上。(R4:93%)		② 「授業が充実しているか」に対する肯定的回答は89.9%であり、授業内容への一定の評価は得られた。			
		保健厚生課	③ 定期考査期間中の平均家庭学習時間2時間以上50%以上、かつゼロ時間0%。(R4:2時間以上55%、ゼロ時間4%)		③ 学習時間2時間以上の者の割合は46.0%、学習時間ゼロ時間の者の割合は2.8%であった。			
		総務課	④ 特別支援教育の視点で、生徒理解に努め、一人一人の特性に応じた指導を充実させる。(新規)		④ 特別支援教育支援員を配置し、指導を充実させた。また、学習状況について、適宜関係者で共有に努めた。			
		総務課	⑤ 一人あたりの図書館利用回数年間10回以上。(R4:8回)		⑤ 年間での利用回数は一人当たり7.0回であった。(1月31日現在)			
		企画課	① 教職員研修、各教科での授業研究会を実施し、資質能力育成のための授業改善を進める。	① 教職員研修を年3回実施し、授業改善に向けて協議した。また、授業参観週間を各学期に設定し、実施した。				
		教務課	② 教科会等で授業研究を行い、わかりやすい授業の実施に努める。	② 新しい教育課程の実施に伴い、各教科で教科会を開き、計画的に研究授業の計画・実施・振り返りを行った。				
		保健厚生課	③ 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。	③ 考査時間割発表日に学習時間表を配付、最終日に学習時間調査を実施した。担当がチェックと状況把握を行い指導に役立てた。				
		総務課	④ 実態調査により生徒の状況を把握する。支援員との連携、ケース会議等により支援内容の充実を図る。	④ 生徒の実態調査を基に、情報共有を行った。また、必要に応じて、巡回相談員による助言をいただいたり、学年会や教科担任会などのケース会を行ったりした。				
		総務課	⑤ 名高ライブラリ発行、出張図書室の充実、教科・科目と連携した図書の推薦により、意欲の喚起を図る。	⑤ 読書感想文全国コンクールや読書感想画の課題図書や各種文学賞受賞作品のコーナーを作るなど、教科との連携を図った。				

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	総合評価		
生徒指導の充実	基本的生活習慣の確立と安心・安全に向けた意識を高める。	生徒指導課各学年主任	① 遅刻者数を年間700人以下にする。(R4: 592人)	② 交通事故防止と交通マナー向上の指導を徹底させ、登下校における交通事故を年間10件以内にする。(R4: 4件)	① 立哨指導や遅刻カードによる指導、また毎朝の声かけ指導などの取組により、遅刻者数は587名(1月末)で、昨年度の同時期から減少させることができた。	② 登下校中の接触事故は9件であった。9件とも命に関わるような事故ではなく、軽傷の事故であった。	(評定) B	「校則見直し」の仕組みづくりにおいて、組織の中で、チームで考えたことを上げていってそれを実現するという経験ができた点が良かった。教職員が「引っ張っていく」のではなく「応援する」という体制となっており、生徒の主体性を引き出すのに有効だったと考えられる。
			① 登校指導や「遅刻ゼロの日」、「考査時の5分前登校」の取組みを充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。声かけ指導も毎朝実施する。	② 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学方法別集会(年3回)、生活安全委員会による挨拶運動(月1回)の実施。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個別に指導を行った。考査時は5分前登校も実施した。毎朝、声かけ指導も行った。	② 登校時の立哨指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも街頭指導を実施した。名西署と連携し、交通キャンペーンも実施した。3年生に対しては自動車免許取得説明会も開催した。		
		生徒指導課各学年主任	① 登校指導や「遅刻ゼロの日」、「考査時の5分前登校」の取組みを充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。声かけ指導も毎朝実施する。	② 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学方法別集会(年3回)、生活安全委員会による挨拶運動(月1回)の実施。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個別に指導を行った。考査時は5分前登校も実施した。毎朝、声かけ指導も行った。	② 登校時の立哨指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも街頭指導を実施した。名西署と連携し、交通キャンペーンも実施した。3年生に対しては自動車免許取得説明会も開催した。	(評定) C	
			① 登校指導や「遅刻ゼロの日」、「考査時の5分前登校」の取組みを充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。声かけ指導も毎朝実施する。	② 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学方法別集会(年3回)、生活安全委員会による挨拶運動(月1回)の実施。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個別に指導を行った。考査時は5分前登校も実施した。毎朝、声かけ指導も行った。	② 登校時の立哨指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも街頭指導を実施した。名西署と連携し、交通キャンペーンも実施した。3年生に対しては自動車免許取得説明会も開催した。	(所見) いじめによる特別指導が1件発生した。よりいっそう、「自他を大切に育成」のための指導を充実させていく必要がある。	

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	総合評価		
人権教育の充実	自他を大切にす る心や態度の育 成	人権教育課	① 3年生対象の「人権に関する意識調査」で、人権課題に取り組む意欲を示す回答を90%以上にする。(R4: 95%)	② 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止に努め、いじめによる特別指導を0件にする。(R4: 0件)	① 「意欲的に取り組んだ」、「ある程度取組んだ」を合わせて98.7%の回答を得ることができ、目標を達成できた。	② いじめ防止指導を徹底したが、いじめによる特別指導が1件発生した。	(評定) C	生徒個人もスマホ等で簡単に情報収集でき、様々な情報が入ってくる時代と なっている中、親の言っていることが伝わりにくい面もある。教員が広い視野のもと、家族以外の大人の意見として積極的に助言していただけるとありがたい。
			① 人権HR活動や人権映画鑑賞会・講演会等を行うことにより、多様性や人権を尊重し、いじめ・差別を許さない意識や態度を育てる。	② いじめに関するアンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。	① 人権HR活動を5回実施、人権映画鑑賞会では、生命の尊厳について考える映画を鑑賞した。人権国際理解教育講演会では、グローバル社会と人権について考える機会を持った。	② アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、いじめ未然防止に努めた。		
		人権教育課	① 人権HR活動や人権映画鑑賞会・講演会等を行うことにより、多様性や人権を尊重し、いじめ・差別を許さない意識や態度を育てる。	② いじめに関するアンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。	① 人権HR活動を5回実施、人権映画鑑賞会では、生命の尊厳について考える映画を鑑賞した。人権国際理解教育講演会では、グローバル社会と人権について考える機会を持った。	② アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、いじめ未然防止に努めた。	(評定) C	
			① 人権HR活動や人権映画鑑賞会・講演会等を行うことにより、多様性や人権を尊重し、いじめ・差別を許さない意識や態度を育てる。	② いじめに関するアンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。	① 人権HR活動を5回実施、人権映画鑑賞会では、生命の尊厳について考える映画を鑑賞した。人権国際理解教育講演会では、グローバル社会と人権について考える機会を持った。	② アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、いじめ未然防止に努めた。	(所見) いじめによる特別指導が1件発生した。よりいっそう、「自他を大切に育成」のための指導を充実させていく必要がある。	

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	自己評価	委員評価	今後の方針	
キャリア教育の充実	社会的自立のために必要な資質・能力の育成	進路指導課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	入試問題研究部については、少人数だからできる取組であり、今後も継続していただきたい。生徒の側から、学習面において、こういうことをしてほしいというような希望・要望も吸い上げ、個を伸ばすことが重要であると考える。また、卒業後、いずれは就職することになるが、学生時代には、地域・社会にどんな仕事があるのかという知識を得る機会がないため、インターンシップや企業等の経営者による説明会等、社会について知る機会を設け、それを高校での学びに生かせるよう検討していただきたい。	
			① 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上とする。(R4:97%)	① 最終進路先に満足した生徒の割合が94.8%、進路指導に満足した生徒の割合が92.9%であった。			(評定) B
			② 各学年での志望理由書に関する取組に対して、アンケートによる生徒の満足度を85%以上にする。(R4:86%)	② 3年生対象の、「志望理由書に関する取組に満足か」に対する肯定的回答の割合は92.9%であった。			(所見) 進路ガイダンスや進路講演会、志望理由書に関する取組、「総合的な探究の時間」での取組等を充実させることができ、「社会的自立のために必要な資質・能力の育成」に向けた指導を行うことができた。より高い意識を持った生徒集団の育成については、人数を増やせるよう働きかけていきたい。
			③ 早い段階から、自らの進路に向けて主体的に取組む高い意識を持った、5%程度の生徒集団をつくる。	③ 「入試問題研究部」への当初の参加者数は1名であったが、個別の声かけをすることにより、年度末には3名に増えた。			
		企画課	④ 1年時：エシカル消費についての課題を見つけている。2年時：グループ研究を行い、発表ができる。3年時：個別研究を行いレポート作成ができる。(R4:各学年における目標を達成)	④ 1年時は外部講師を9回招き、意識付けができた。2年時はグループでの探究活動、石井町中央公民館での発表会を実施した。3年時は、個別研究、レポート作成に取り組むことができた。学習目標と計画を随時提示しながら指導を行った。			
		進路指導課	活動計画	活動計画の実施状況			
			① 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。	① 進路指導室や就職指導室を活用して、生徒からできるだけしっかり話を聞きながら進路相談に応じた。			
			② 志望理由書に関する取組を2・3学年の年間計画に位置づける。各ホームルームでの事前指導、講演会を経て、志望理由書模試を実施する。	② 志望理由書模試の初回を2学年3学期に、リライトを3学年1学期に実施した。学習教材「マスターノート」を用いての事前指導、外部講師を招いての講演会を行った。			
③ 部活動の入試問題研究部として、学業に関して組織的・定期的な活動を行い、切磋琢磨できる集団を育成する。	③ 週3回の継続的な活動を行い、主体的に取り組むことができた。進路実現に向けた意識付けにつながっている。						
企画課	④ 「エシカル消費基礎講座」による知識の習得、グループによる探究活動、発表、レポート作成などの活動をより一層充実させる。	④ エシカル消費に関する講演会は、1学年で9回実施した。全学年を通じて、情報収集や発表資料の作成の際には、1人1台端末を活用した。					

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	総合評価		
文化芸術活動の推進	芸術科の魅力の積極的発信と生徒の国際的感覚・視野の醸成	芸術科	① 「名西高校フェスティバル」の入場者数を1,500名以上とする。(R4:1,602名)	① 「第3回名西高校フェスティバル」ではあわぎんホール大ホールで音美書のコラボでの「名西高校100周年記念演奏」を披露し、来場者数は1,821名であった。	(評定) A	各種メディアによる報道、Webページ、名西高校フェスティバルなどにより、積極的に魅力発信を行い、多くの人に芸術科の活動を効果的に広報することができた。その成果もあり、今年の入学希望者も増加したのではないかと考えられる。県内芸術振興における、本校の役割も大きく、芸術へのニーズを掘り起こす意味でも、名西高校が芸術の魅力を県全体に発信していくことが重要である。また、国際交流活動再開により、生徒に広い視野を育み、挑戦する姿勢を醸成することは、一人一人の可能性を伸ばすために有効であると考えられる。	芸術科の魅力の積極的発信を引き続き行う。各種メディア、Webページを効果的に活用するため、芸術科各コースが連携し、組織的活動を展開する。名西高校フェスティバルでは、より一層多くの参加者に直接、名西高校の魅力を感じてもらえるよう、広報と内容の充実を図る。また、国際交流活動を活性化し、生徒の国際的感覚・視野の醸成を図ることができるように継続して取り組む。	
			② 芸術科の取組を本校Webページで発信し、年間80回以上更新を行う。(R4:90回)	② Webページ更新回数は91回であり、芸術科の行事や日々の活動等の取組を効果的に案内・広報することができた。				(所見)
			③ 高文祭で全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについて全国規模の入賞・入選数150以上。(R4:4部門、入賞・入選157)	③ 全国高校総合文化祭(鹿児島大会)に4部門出場した。全国規模の入賞・入選者数は153名2団体であった。				(所見)
		企画課	④ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識を高めた生徒の割合80%以上。(R4:91%)	④ 「国際交流への意識が高まったか」という質問に、「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に答えた生徒の割合は92.3%であった	(所見)			
		芸術科	活動計画	① 内容の充実を図るとともに、各種メディア、オープンスクール等本校主催行事、本校Webページなど、多面的な広報活動を展開する。	① 県内外の展覧会やコンクールに積極的に出場・出品し、優秀な成績を収めることができた。			一定の成果を得た。
			② コンクール等での成果や生徒作品、芸術科行事や日々の活動の様子を、効果的に発信できるよう組織的に情報発信を行う。	② 芸術科担当者により、継続的にWebページで発信することができた。また、各種メディアへの情報提供を積極的に行い、広報することができた。				
			③ 作品の応募やコンクールへの出場、大会参加を積極的に行い、粘り強く、効果的に指導することで、生徒の資質能力を伸ばす。	③ 各種大会・コンクール等へ積極的に参加しながら、生徒一人一人の個性を生かしつつスキルアップを図る指導を充実させた。また、日頃の活動の成果を「第3回名高フェスティバル」で発表した。				
			企画課	④ 生徒の国際理解を深めるために、講演会等の開催や海外姉妹校との交流活動を行う。	④ 台湾の姉妹校である羅東高級中学とのオンラインでの交流、メッセージカード交換を行った。3月に13名の生徒が現地を訪問し、直接交流の機会が持てた。また、近隣のALTを招いて初の「名高EnglishCamp」を実施し、ALT6名、本校生13名、中学生2名の参加を得			

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	自己評価	委員評価	今後の方針
開かれた学校づくりの推進	地域社会への積極的魅力発信、生徒の参画、地域貢献の充実	総務課	評価指標 ① 名西高校創立100周年記念事業において、名西高校の歴史や魅力を効果的に発信し広報できるようにする。(新規)	評価指標の達成度 ① 創立100周年記念式典では、生徒会役員によるスライド上映、書道パフォーマンス、音楽演奏等で効果的に魅力を発信できた。	総合評価 (評定) A	創立100周年記念式典では、生徒たちが全面的に前に出て活躍していた。交通安全キャンペーン、サイバーセキュリティ教室、名高こども食堂、メモリアルウォール制作、書道教室、ミュージカル上演等、地域で生徒が主体的に活躍することにより、名西高校の魅力が直接的に伝わるにつなげた。このような、生徒が学校外へ出かけていって、学校で学んだことを、自分のおさめるのではなく、学校外のいろんな人に発信していくという取組が、生徒に自信を持たせ、生徒を成長させているのではないかと考えられる。
		生徒指導課	② 「名高パトロール隊」の活動を年間30回以上実施する。(R4:32回)	② 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど32回、意欲的に活動した。	(所見) 名西高校創立100周年記念事業において、名西高校の歴史や魅力を効果的に発信し広報することができた。「名高パトロール隊」や地元警察署と連携した交通安全キャンペーン、地元中学校での「サイバーセキュリティ」出前講義、芸術科による地域での活動、生徒の主体的なボランティア活動への参加等、地域社会への積極的魅力発信、生徒の参画、地域貢献の充実を行うことができた。	
		企画課	③ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。(R4:1回)	③ 春と秋の2回、全国交通安全運動期間に名西署等と連携して、街頭キャンペーンを実施することができた。		
		芸術科	④ 自主的にボランティア活動を行った生徒が、全校生徒の60%以上。(R4:多数参加)	④ 名高パトロール隊、夏祭りでのゴミ回収活動やエシカルこども食堂、親子クリスマス会等に参加した生徒は、37.6%であった。		
		総務課	⑤ 中学生を対象とした行事や地域での芸術的活動の充実を図る。(R4:オープンスクール等参加者数272名)	⑤ 中学生、保護者、中学校教職員を対象とした行事の参加者数は、オープンスクール185名、体験入学335名、芸術科進学説明会137名であった。		
		総務課	活動計画 ① 100周年記念事業実行委員会・藤花同窓会と連携して、できるだけ多くの会員を巻き込み、広報活動の充実を図る。	活動計画の実施状況 ① 創立100周年記念式典をケーブルテレビでの放映、記念誌のWeb公開により、同窓会員へ広く周知することができた。		
		生徒指導課	② 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携しての、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動、「サイバーモデル校」としての地元中学校での出前講義を実施する。	② 清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動、などを実施した。地元中学校での「サイバーセキュリティ」出前講義も生徒主体で実施することができた。		
		企画課	③ 名西署と連携を図り、生活安全委員会が交通マナーアップのためのキャンペーンを実施する。	③ 秋の交通安全運動では、美術部が名西署、交通安全協会と連携して制作したのぼり旗を用い、キャンペーンを実施した。		
		芸術科	④ 参加方法等を掲載したリーフレットを配布し、生徒がより参加しやすいように工夫するとともに、個別の声かけをする。	④ リーフレットの配布、クラスで呼びかけを組織的に行った。また、今年度新たに「名高こども食堂」を開催し、本校生27名、地域の子供19名、保護者12名の参加を得た。		
		芸術科	⑤ 地域での文化祭や展覧会等の行事において、生徒の演奏会や作品制作協力を実施する。	⑤ 地域の学校等での音楽出張公演、メモリアルウォールの制作、書道教室の開催等により交流をすることができた。		